

令和2年度（2020年度）エゾシカ対策有識者会議  
第5回エゾシカ管理のあり方検討部会  
インターネット討議 議事録（概要版）

日 時 令和2年5月11日（月）～令和2年5月29日（金）  
開催形式 インターネット掲示板による討議  
参加者 別添「参加者名簿」のとおり  
議 題 1 北海道エゾシカ管理計画（第6期）の策定について  
2 エゾシカ管理モデルについて  
3 その他

議 事

（1）議題1について

ア 事務局より、資料1-1、1-2に基づき、策定に向けた今後のスケジュール及びこれまで構成員から出された意見の概要について説明。

イ 構成員意見等

沖構成員）

- ・ エゾシカ捕獲推進プランは重要。
- ・ 振興局単位の目標数をプランで決定し、市町村配分をボトムアップで決めることにより、道と市町村をつなぐツールになることを期待。
- ・ 有効活用面でハンターの専門化は一定程度進むと思うが、市町村に1～2名程度。一方で、個体数調整・有害鳥獣駆除には多くのハンターの力が必要であり、底辺の拡大は常に必要。
- ・ 東部地域の成果を分析し、西部、南部の参考にするとよい。
- ・ エゾシカ肉は安売りできる物ではなく、ブランド化・高級路線。
- ・ 認証施設の差別化を図るべき。
- ・ 食肉向けの捕獲は全体の2～3割。残り（駆除）についての検討も重要。
- ・ 捕獲の主体は狩猟者と市町村。道はサポート・調整を担ってほしい。

松浦構成員）

- ・ 人材育成について、個体数管理のための捕獲従事者の他、衛生的な肉を供給する捕獲者（検査能力を有する者）、捕獲コーディネーターの育成が重要。
- ・ 猟区制度の検証が必要。
- ・ 目指すべきは安全・安心なエゾシカ肉を多く流通させること。どんな肉でも良いわけではない。

（2）議題2について

ア 事務局より資料2-1、2-2を提示。

イ 松田オブザーバー、藤原氏より、新たな管理水準のシミュレーションを説明し、内容確認等について質疑応答。

ウ 構成員意見等

沖構成員)

- ・ 緊急減少・漸減・漸増等の各措置を有害駆除にどう反映させていくか。

宇野部長)

- ・ 個体数調整捕獲の場合、オスメスごとに捕獲制限を設けるなどの対応は可能と思われる。

稲富構成員)

- ・ 現計画の目標水準では、持続的な利用に必要な資源量を得ることは困難。
- ・ 現行計画では漸減・漸増措置の境界にあたる水準(%P\*)が定められていないが、次期計画ではこれを定める必要がある。

松田オブザーバー)

- ・ %P\*の変更により食肉の供給量は調整可能だが、緊急減少措置水準(%P+)と禁猟措置水準(%P-)は、食肉供給とは別の視点で設定する必要がある。

伊吾田部会長)

- ・ 新たな管理水準の検討については、統計学的な検討が必要なことから、生息評価部会の検討事項とすることについて提案する【部会長提案】。

※ 上記【部会長提案】については、6月8日開催の生息状況評価部会において、伊吾田部会長から提起。

(3) 議題3について(参考資料1-1「あり方検討部会検討内容のまとめ」関連)

稲富構成員)

- ・ 現状の利活用率、第4回検討会の検討事項を盛り込むべき。

沖構成員)

- ・ 関係者の意識について単純化しすぎ。「関係者間の意識が乖離している」というより、「関係者間の調整が必要」という点が重要。

松田オブザーバー)

- ・ 関係者間の意識・利害関係者の相違を認識し合うことが重要。

曾我部構成員)

- ・ シカ肉は高級食材としての位置付けが強く、家庭消費が進んでいない。家庭での普及推進(ネット販売やレシピの普及など)が必要。

松田・宇野・沖・曾我部)

- ・ 次期計画の策定にあたっては、短期的(5年)な視点と併せて中長期的(20年程度)ビジョンが必要。